【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和６年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている
Ｂ：おおむね達成できている
Ｃ：やや不十分である
Ｄ：不十分である

学校名	佐賀市立鍋島小学校
1　前年度 評価結果の概要	・主体的に学ぶ児童の育成のために、国語科を中心に校内研究に取り組んだ。全員が授業を公開して、単元・授業づくりや言語環境の在り方を検討してきたことで、児童一人一人が「めあて（問い）」を決め、主体的に学びを追求するようになった。 ・心の教育では、道徳の授業の充実、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修等、様々な側面から継続して取り組んだ。いじめ事案や不登校対策については、些細な兆候も見逃さず組織的に対応を行った。児童にとって安心安全な学校を目指して、取組を継続していきたい。 ・業務改善・職員の働き方改革においては、月1回の部会で業務の進捗状況を確認し合ったり、学年で共有する教材を使うなど改善に取り組んできた。年度の後半に、時間外在校時間が総じて短くなってきたが、業務内容についてはこれからも改善点があれば見直していきたい。
2　学校教育目標	「笑顔いっぱい　楽しく学ぶ　鍋島っ子の育成」 ・主体的に学習に取り組み、共に力を合わせて伸びる児童　　・思いやりの心をもち、自分も相手も大切にできる児童 ・規範意識や判断力を身に付け、正しい行動ができる児童　　・健康な体づくりに取り組み、粘り強くやり抜く児童
3　本年度の重点目標	①　校内研究を通して、主体的に学ぶ児童を育成する。 ②　鍋島スタイルや鍋島共通事項、UD教育等の取組を通して、安全で安心な学校づくりを行う。 ③　児童の良さを伸ばすことで自己肯定感を高め、規範意識や判断力を育成する。

4　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　5　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○活用できる力の基盤となる基礎・基本の徹底	○「鍋島スタイル」（学習）が「できている」と回答する児童を85%以上にする。	・鍋島中校区の取組として「鍋島スタイル」（学習）の徹底と家庭学習時間を意識させる。できている基準を児童に提示し、その都度評価し、実践につなげる。	A	・「鍋島スタイル」（学習）ができていると回答した児童は97%だった。その中でもいつもできていると回答した児童は53%であったので、時間を守り、チャイムで立腰や人の話をしっかり聞くことができるように声掛けや指導を継続して行っていき、いつでもできる児童の割合を高めていきたい。	A	・「鍋島スタイル」（学習）ができていると回答した児童は1学期同様97 %であった。その中でもいつもできていると解答した児童は55%であり、中間より少し高くなった。今後も引き続き、学習の定着が図れるよう声掛けや指導を行っていく必要がある。	A	・「鍋島スタイル」（学習）を基に指導されており、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自分や相手を大切にしている児童を90%以上にする。	・人権・同和教育を教育課程に位置づけ、集会や人権教室等の実施を通して人権感覚の豊かな心の育成を図る。 ・人と人とのつながりを意識し、一人一人の存在を認め合う姿を育て、自己肯定感を高める。	A	・「自分や友達を大切にしている」に対し、肯定的に回答した児童は、99%で目標を達成することができた。人権・同和教育やふれあい道徳の授業実践を通して、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心が高まってきている。 ・学校全体として、ふれあい班での遊びや活動を行い、授業では「友達タイム」の中で友達に頼ったり、認められたりする時間を設けるなど、児童間のつながりを大事にした活動を通して自己肯定感を高めることに結びついている。	A	・「自分や友達を大切にしている」と回答した児童は99%で目標を達成することができた。人権教室の感想を各学級代表児童を掲示することで、学年を超えた人権意識の向上を図ることができた。 ・別様の配布を行い、学年ごとに学校行事及び各教科と照らし合わせながら価値項目との関連を踏まえて授業研究に努めた。	A	・SNS関連のトラブルの話を聞くと、情報モラル教育の大切さを改めて考えさせられる。自分も相手も大切にした生活を送るためには、児童への教育だけでなく、家庭（保護者）への啓発も継続していかなければならない。	
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○「心のカード」の記述内容をふまえ、「いじめを見たり気づいたりしたら、止めるようにしたり大人に伝えたりしている。」「安心して学校に通っている」と回答する児童の割合を90%以上にする。	・「心のカード」を毎月実施し、担任が内容を確認する。問題事案があれば、即座に対応し、その後、教育相談担当と管理職を含め組織的にかかわり、継続的に見守る。また、不登校傾向の児童の背景や要因を職員で共有し、手立てを講じる。	B	・「いじめを見たり気づいたりしたら、止めるようにしたり大人に伝えたりしている。」と回答した児童は89%であり、数値目標を下回った。「安心して学校に通っている」と回答した児童は94%であり、数値目標を上回った。また、職員の98%が「子と子、子と大人のつながりを意識し一人一人の存在を大切にする指導を行っている」と回答している。今後も、組織的に児童に関わる取り組みを継続しながら、いじめの早期発見、早期対応に努めていく必要がある。	A	・「いじめを見たり気づいたりしたら、止めるようにしたり大人に伝えたりしている。」と回答した児童は、「安心して学校に通っている」と回答した児童はいずれも91%であり、数値目標を上回った。また、職員の100%が「子と子、子と大人のつながりを意識し一人一人の存在を大切にする指導を行っている」と回答している。今後も、心のカード等の取組を継続し、困った時には身近な大人に相談できる体制づくりに努めていく。	A	・いじめを見たり気づいたりしたら、止めるようにしたり大人に伝えたりしている児童が多いということは、どの児童にとっても「安心して学校に通っている」ことに結び付いてくる。今後も、先生方と児童・児童と児童のつながりを大切にした教育活動を行ってほしい。	
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒80%以上 ●◎「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・毎月行う「心のカード」や、年に2回ある教育相談月間での児童への対応では、気になる点だけではなく、児童の頑張りや学期目標に対する肯定的な姿を認めるように話をする。 ・児童が書いた学期目標を評価したり、キャリアパスポートに書いた内容を交流させたりして、児童が互いに認め合う場を設けることで、夢や目標を意識できるようにする。	A	・「心のカード」で、気になる児童の様子を把握するだけではなく、学年や学校全体として掲示板や給食時間の放送などで頑張っている児童を認め合うことが多くあり、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は89%と目標を大幅に上回った。 ・目標や学校行事の振り返りなどの交流が各学年で行われていることもあり、「将来の夢や目標を持っている」と回答をした児童は84%とほぼ目標に達していた。今後は、夢や目標をもっていると回答できていなかった16%の子ども達への個別の対応をする必要がある。	A	・「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童は88%、「将来の夢や目標を持っている」と回答をした児童生徒は86%と、ともに目標数値を上回っていた。 ・今年度は、11月の教育相談週間に20分間の「ぼかぼかタイム」を設け、一人ひとりの肯定的な思いを引き出すようなやり取りをしてもらうことで、自分なりに夢や目標をもって生活活動することにつなげた児童が増えたのではないかと考える。	A	・どの学年においても、学校教育活動の中で先生方は、一人一人の児童に向き合って対応されている。教育相談週間が成果を上げていると思う。	
	○「鍋島スタイル（生活）」を中心に考え、きまりを守り、自分で正しい判断をし、行動できる児童の育成	○「鍋島スタイル（生活）」が個人で「90%できている」と回答できるように目標をもたせる。また、全校児童で達成できている児童を80%以上にする。 ○鍋島スタイル満点カードで9割達成できた児童を80%以上にする。	・「鍋島スタイル」を掲示、放送するとともに、学級指導、児童会活動を通して開発的生徒指導を展開する。問題行動等の原因、背景をさぐり、未然防止に努め、生徒指導協議会で情報交換し、指導事項を共通理解し、全校に向けて指導していく。また、組織で早期解決、再発防止に努める。	A	・「鍋島スタイル（生活）」が「できている」「大体できている」と回答した児童の割合は99%で、数値目標を達成することができた。また、「鍋島スタイル満点カード」で9割達成できた児童の割合は89%で、こちらも数値目標を達成することができた。今後も、継続して、「鍋島スタイル」の定着を図っていく。 ・生徒指導協議会にて、児童の問題行動や生活の様子等を共通理解、情報交換し、全校での指導事項を確認する。学年や全校で一貫した指導を行うことで、問題等の早期解決や未然防止に努める。	A	・「鍋島スタイル（生活）」において「できている」「大体できている」と回答した児童が、95%で目標達成を継続することができた。学年に応じた内容を重点的に取組んだ成果が出ており、進んであいさつができる児童やあいさつ運動に参加する児童が増えてきた。今後も「鍋島スタイル（生活）」の定着を図るために、委員会であいさつ運動に取り組んだり、月の生活のめあてを継続したりしたい。 ・問題行動等については、職員連絡会を通じて事案を共通理解し、全校放送を行ったところ早期解決や再発防止に努めることができた。	A	・参観では、どの学年の子供も集中して学習に取り組んでいる様子が分かった。低学年の児童もきちんと先生を見て話を聞いており、成長を感じることができた。	
●健康・体つくり	●運動習慣の改善や定着化	●生活リズムを整えさせ、日常的に運動に親しむ児童を育てる。「早寝早起き朝ごはんができている」と回答する児童を90%以上、「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答する児童を80%以上にする。	・養護教諭、体育部が主となって望ましい生活・運動習慣を身に付けさせる指導を系統的に行う。 ・状況に応じた感染症対策を行うとともに、外遊びの奨励、大縄大会の実施、体育(保健)の授業の工夫改善を行う。運動の面白さ、楽しさ、喜びを味わわせ、運動に親しむ児童を育成する。	B	・保健だより等で周知を行ってきたが、「早寝早起き朝ごはんができている」と回答した児童は86%であり、目標に達成していない。今後も定期的に児童や保護者への周知を継続していく必要がある。 ・「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答した児童は74%であり、目標に到達していない。今年度は、熱中症対策として、遊ぶ時間を指定したり、中止を呼び掛けたりしたため外遊びの制限があった。これからは、気温が下がることからスポーツチャレンジや大縄大会等で、運動に楽しく親しむ機会を作っていくことで運動習慣を身に付けさせたい。	B	・保健だより等で周知を行ってきたが、「早寝早起き朝ごはんができている」と回答した児童は88%であり、微増したが目標に到達していない。冬季になると、早起きのリズムが崩れやすくなるので、指導を継続し、家庭への周知と連携を呼び掛けていく。 ・「日常的に運動に親しみ、身体を動かすことが好き」と回答した児童は75%であり、微増したが目標に到達していない。校舎改築のために運動場が狭くなり、遊ぶ時間を学年によって指定し、外遊びの制限があった。改善に向け、児童に運動の楽しさを伝えていくと共に、保護者にも運動を楽しむ機会をもつことの良さを提案していきたい。	B	・基本的な生活習慣が身に付いている児童が多いと聞き、感心した。各家庭によって課題もあると思うが、関係機関とも連携しながら、実態に応じた指導・支援を継続してほしい。	
	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	●年間を通して給食指導・食育を行い、食べ物を大切にする気持ちと望ましい食習慣、食べ方について学ばせる。「健康に良い食事をしている」と回答する児童を90%以上にする。	・栄養教諭と担任が連携し食育の充実を図る。年に1回以上、授業において食に関する授業を発達段階や、児童の実態に応じて実施する。	A	・給食時間は決まりやマナーを守って食べていると答えた児童は97%、職員も食育の充実を図っていると答えた人は95%であった。給食時間の指導はこれからも継続を行っていきたい。2学期は、食育の授業を実施し、さらに深めていきたい。	A	・県の調査（5年生）において「健康に良い食事をしている」と回答した児童は91%、学校評価アンケート（において「給食時間は決まりやマナーを守って食べている」児童は96%、食育の充実を図っていると答えた職員は97%であった。これからも給食の時間を中心に指導を行っていきたい。 ・担任教諭と栄養教諭による食に関する学級活動を実施することができた。 保護者アンケートの「学校は食育の指導を行っている」の結果は3以上の評価が96%であった。家庭への食に関する指導の啓発を続けていきたい。	A	・学校は、食育指導を通して健康な体作りに充実した取組をされていることを知った。2年生では、栄養教諭と連携して食事のマナーの一つである箸の持ち方についても、工夫した実践がなされている。	
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。（時間外在校等時間：月45時間以内の職員75%）	・毎週金曜日の定時退勤日、第三金曜日のスーパー定時退勤日の取組を全職員で意識し、達成を目指す。	B	・定時退勤日を意識し時間外在校等時間月45時間以内であった職員は全体で78.6%であった。今後も、安全衛生委員会において心身の健康管理や職務遂行に関してToDoリストを活用する話題を取り上げ、タスクマネジメントの意識化を強化していきたい。	A	・時間外在校等時間月45時間以内であった職員は全体で81.6%で目標を達成することができた。安全衛生委員会を通して、ToDoリストの活用や健康管理について推進したことが意識向上に結び付いてきていると言える。今後も業務改善を進めていきたい。	A	・安全衛生委員会等で先生方の働き方について周知され、学校全体で協力して教育活動を進められていることが伝わってくる。先生方の働き方については、今後も配慮をお願いしたい。	
	○業務の効率化の推進	○個人ではゴールと優先順位、組織としては、行事の精選と業務の縮減に取り組み、効率化が進んだという職員を75%にする。	・長期、短期毎に業務の内容を見通した準備と計画を立て、各学年、部内で可視化する。教育効果を優先に考え行事の削減、縮小を行う。	A	・各部での取組は月1回の部会で業務内容を確認し、職員会議や連絡会で周知したことで、全職員に浸透した。行事ごとの振り返りをもとに、教育効果を優先に考え、業務縮減を図ることができたと感じる職員は90.5%であった。	A	・業務の効率化が進んだと感じる職員は83.3%で目標を達成することができた。各部会の部長がリーダーシップを取り、計画的に準備を進めてきたことが成果を上げている。行事等の教育効果を重視し目的を明確にした結果、業務内容を見直すことができた。	A	・毎年、様々な「働き方改革」を推進されている。しかし、課題が多いことも事実である。今後は、保護者にお願いできることや外部機関に依頼すること等を整理され、先生方の負担増とならないよう、取組の精査を継続していく必要がある。	
●特別支援教育の充実	○教職員の特別支援教育のスキルアップと校内支援体制の確立	○「支援を要する児童に適切な対応をとるよう努めている」と回答する教職員を90%以上にする。	・支援を必要としている児童に対して、必要に応じてケース会議を設定し、具体的な支援方法と短期・長期目標を決定する。 ・外部機関との連携を密に行うとともに、発達障害のある児童や配慮・支援を要する子どもに対する研修を実施する。	A	・「適切な対応をとっている」と回答する職員は97.7%であった。今後も必要に応じ、支援を必要としている児童に対してのケース会議を実施し、支援体制の充実を図る。 ・巡回相談の利用やエリアリーダー、医師との連携を行ってきた。引き続き、外部専門家等の助言等で得られた知見広げ、生かしていけるような研修体制を充実していく。	A	・支援を要する児童に対し、適切な対応をとるように努めているとする職員が97.6%となり、目標を達成することができた。特に支援会議（ケース会議）を充実させてきたことで職員の対応力向上にもつながり、より適切な支援ができる職員が増えた。 ・保育所等訪問支援事業やひまわり相談室等の外部専門機関を活用したことが、専門的で幅広い知見での研修につながった。	A	・これまで児童のために数多くの支援会議を開催されるなど、特別支援学級、通常学級どちらもきめ細やかで丁寧な対応がされている。新1年生も含め、全ての子供達の成長のために、幼保こcompanの連携を強化し情報交換していきたい。	

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度（評価）	進捗状況と見通し	達成度（評価）	実施結果	評価	意見や提言	
○危機管理体制の強化と対応能力の育成	○家庭と連携した防災教育・安全教育の充実	○「災害が起きた時に自分の身を守ることができる」と回答する児童を95%以上にする。 ○自転車のヘルメット着用率を90%以上にする。	・年度はじめに避難の仕方や避難経路を伝え、職員の指導力向上を図るとともに、児童にも朝タイム等で指導をする時間を確保し、不測の事態への対応を想像させる。各訓練は、実際に動きの確認をし、対応力を身に付けさせる。 ・道路交通法の一部改正（令和5年4月1日施行）により、全ての自転車利用者に対し、自転車の乗車用ヘルメット着用努力義務が課せられることや、正しい乗り方についての指導内容等を各種便りで家庭に広める。	A	・避難訓練等、防災についての学習を通して、96%の児童が自分の身の守り方を知っていると回答していた。今後も、2学期以降の学習を経て防災意識を高めていきたい。 ・5月に交通安全教室を実施し、1年生は歩行実技、2年生～6年生は交通安全教育の動画視聴をし、安全な生活について学習した。ヘルメットの着用率については、「できている」83%、「大体できている」12%という結果となり目標を達成できたといえる。今後も引き続き、通学路歩行、自転車の乗り方、ヘルメット着用の大切さを指導していく。また、指導内容のお便りを長期休み前に家庭へ向けて配布し、安全教育について理解と協力を求めた。	A	・不審者対応避難訓練や地震火災避難訓練を通して、「災害時に自分の身を守ることができる。」と回答した児童は、98%であり、数値目標を上回ることができた。今後も繰り返し、防災意識を高めるための指導を継続していく。 ・自転車の乗り方では、児童のヘルメットの着用率が93%であり数値目標を上回ったことから安全に対する意識が向上してきていると言える。	A	・危機管理上、今後も児童の命を守るために計画的な訓練を実施してほしい。また、自転車のヘルメット着用に関しては、家庭・地域・学校が連携して、事故が起きないように指導していきたい。	

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志を高める教育

5　総合評価・次年度への展望

・国語科において「読解力を高めるための授業づくりの工夫」として、児童一人一人の「めあて（問い）」を大切にした校内研究に取り組んだ。全職員の授業公開を通して、単元・授業づくりや言語環境の在り方を検討し、成果や課題を共有しながら研究を推進することができた。このことが、児童が主体的に学び、豊かに表現できる児童の高まりに結び付いた。
・心の教育では、道徳の授業の充実、人権・同和教育、「心のカード」活用及びQ-Uの職員研修等について実践してきた。このことが、児童が楽しく安心して過ごせる学校・学級づくりに寄与している。いじめ事案や不登校対策については、担当者を中心に管理職とも連携しながら組織的に対応することができた。未然防止・早期発見・早期対応・再発防止の重要性について再認識ができたことや丁寧な保護者対応の在り方について周知できたことは大きな成果である。今後も、児童にとって安心安全な学校を目指していきたい。
・業務改善・働き方改革については、各部会で業務内容を確認し見通しを持った業務遂行に心掛けたり、学年で共有する教材を使うなど改善に取り組んできた。時期のよって差異はあるが、時間外在校時間が短くなっており業務改善の成果が表れてきている。今後も、各部の業務内容や学校・学年行事等について見直しを図り、改善を進めていきたい。